
光の翼と金の紋章

零鳴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

光の翼と金の紋章

【Nコード】

N1557M

【作者名】

零鳴

【あらすじ】

3つの世界の戦争についての内容です。

プロローグく愚かなる戦争く

プロローグ

世界は3つ。

聖なる者が住む天界。輪廻する人間界。邪悪な心が住む魔界。かつて、3つの世界は戦い、やがて終わりがきた。

戦争は人間界を戦場とし、多くの罪なき民が殺された。

天使は魔術と剣、人間は知恵と剣、悪魔は黒魔法を使った。

戦いの理由は些細なことでした。ですが、この戦争で得たものは無く失ったものだけが山のように積み上げられました。

戦いはどの世界にも勝利を与えず、曖昧なまま終わりを遂げた。

魔力を持たない人間達は、頭を使い科学の道へと進んでいきました。

そして、青年と少女の物語は幕を開けたのだった。

プロローグ―愚かなる戦争―（後書き）

自己紹介―エリスerisといっています。まだまだ未熟者ですがなるべく読みやすいように書かせていただきますのでよろしくお願いします。
（もしかしたらたまに駄絵が載るかも。）

第一章 いつもと違う日

栗色の髪をした青年、レオンハルトは黒の制服の上にロングの白いコートを着込んで学生や出勤途中の大人たちが行き交う都会の道を歩いていた。

すると、背後からはりのある声が聞こえてきた。

「おい！レオ。俺を待たずに先に行ってしまうなんてひどいじゃないか。」

声をかけたのは綺麗な長い黒髪で女性に目が無いと評判のレオと幼馴染のトーマだった。

レオは少し鬱陶しいそうに言葉を話そうとした。だからその言葉は目の前で起こった交通事故で発することができなかった。

すると、トーマがびっくりしたように言った。

「レオ！あ、あれって・・・先生の車じゃないか？」

「まさか・・・君の見間違いじゃないか。トーマ。」

すると、トーマは自信ありげに胸を反らした。

「俺はなあ、結構記憶力が良いんだぜ、だから間違えるわけが無い。」

「

レオはトーマの言葉を見無視して驚きでいっぱい目の目で人をはねた教師の車を見た。

そして、車から出てきたのは眼鏡を掛け、やや白髪の混じった世に言う初老の男性だった。

「俺の言ったこと本当だっただろ。」

レオはトーマの記憶力には感心した。だが、レオはやや呆れ気味にトーマに言った。

「それより、僕たちは早く学校に行かないと遅刻になるぞ。」

すると、さっきまで時間を気にせず立っていたトーマは焦りながら走り出した。

レオもそれに続く。

そして、忙しい一日が始まったのだった。

第二章 (1) 絶対命令

少女は神殿の廊下を歩いていた。

神殿というよりも中は宮殿のようにきらびやかだ。

金の飾りや高価な花瓶に生けてある綺麗な花が飾ってある。

少女はそれらに気をつけながら足をすすめた。

少女が足を止めたのはとある大きな扉の部屋の前だった。

少女は扉の取っ手に手を掛けて中に入った。

その部屋はなんともいえないほどの広さだった。

すると、何処からともなく声がした。

「お久しぶり。何ヶ月ぶりかな？とにかく、来てくれてありがと。シェリー。」

ふと聞こえた声は少女の名を呼んだのだった。

「大天使様が呼んだから来たんですよ。後、6ヶ月ぶりです。それで何のようですか？」

大天使フィロは待ってましたとばかりにフィロに言った。

「それじゃあ、人間界に行って来てくれるかしら。」

「えっ!! 何でですか？私以外にもっと最適な人がいるじゃないですか!!」

シェリーは手を振りながら嫌がった。

「今、魔界の悪魔達が人間界を侵略しようとしているのは知っているかしら？」

「ええ。噂には聞きましたけど・・・」

「だから、あなたにそれを事前に防ぐための準備をして欲しいの。お願いできるかしら？」

トップの命令は絶対だ。シェリーは渋々引き受けた。

第二章 (2) いざ出陣!!

(なによ、この世界。不便すぎるわ。ここで魔術を使ったら目立つし・・・。とにかく、レオンハルトって人を探せばいいのね。)

シェリーは、大天使フィロとの会話を思いだす。

『探して欲しい子は、レオンハルトって男の子よ。』

フィロは写真を見せた。『多分、学校にいると思うわ。その近くに送ってあげるわ。』

ここまでは、大天使との会話だった。

そして、シェリーは目的地へと向かったのだった。

学校には、警備が多く厳重に守られていた。

(なによ、この守りの堅さ。うゝ。どうしよう。)

シェリーは考えたあげく、変装することにした。

金の髪や緑の瞳はそのままでは大丈夫だが、制服はどうにもならなかったので草陰に隠れて魔法を使った。

(ここからどうするかが問題ね。クラスとかわからないし、建物も大きいし・・・。とにかく片っ端から探しましょう。)

学校の中は大きいわりに道はわかりやすかった。

というのも、この学校は来訪者が多いため所々校内地図が貼ってあったのだ。

今まで歩いてきたためかシェリーは体力が底を尽きそうだった。

そして、最後の1教室のドアを勢いよく開けた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1557m/>

光の翼と金の紋章

2011年10月7日10時42分発行